

日時:令和4年10月29日(土)

13:00~14:20

場所:本校 第一応接室

司会 教頭

記録 吉田(広報企画グループ)

1 開会

【佐藤教頭】

令和4年度平塚工科高校第2回学校運営協議会始める。

資料は、次の通り。

令和4年度平塚工科第2回学校運営協議会の次第

令和4年度平塚工科高等学校第1回学校運営協議会(学校評価部会)関係意見書

令和4年度学校評価報告書(目標設定)。広報企画グループ業務等報告

第2回学校運営協議会資料生徒支援グループ

2022年度内定企業系列一欄が10月7日現在

2 校長あいさつ

【齋藤校長】

- ・ 第1回の運営協議会は書面開催となった。新型コロナウイルスの影響で、学校行事等を通常に開催できていないが、内容を工夫しながら開催している。
- ・ 今年度の平工祭は通常通り開催し、事前申し込みで、中学生及びその保護者を受け入れた。
- ・ 今月の1日に、本校社会部がホンダのエコマイレージチャレンジ全国大会に参加した。これは1リッターの燃料で何キロ走れるかというエコマイレージチャレンジで参加した。予選では、1リッターで985キロ、本戦では1リッターで841キロという結果だった。本選では、残念ながらパンクをしまい、タイムオーバーの結果で終了した。
- ・ 校内で教室棟の耐震工事をやっている。生徒は仮設校舎で学んでいる。今後、来年の3月には元の校舎棟に戻る予定である
- ・ 本日は多くの意見をいただきたい。

3 学校運営協議会

(1)教育活動についての進捗状況報告(各総括教諭)

【佐藤教頭】

教育活動全体の進捗状況について

【総務 秋沢】

- ・ コロナ過の中でPTA活動を展開している。この2年間、生徒減でPTA活動に参加できる保護者が少なくなっているため、今後のPTAの在り方が問われている。
- ・ 1学期終了後に、火災の避難訓練を行った。滞りなく避難訓練ができた。
- ・ 地域貢献活動で、環境化学系の課題研究のグループが環境調査を含めたゴミ拾い等を実施した。

【教科外 田中聡】

- ・ 教科外グループでは、学校行事や部活動に関する業務を行っている。4月に新入生オリエンテーションを初め、部活動の勧誘活動等を行った。入学者数が減っているが、入部者の割合は、昨年度より8.2%位増加した。
- ・ 5月の終わりに陸上競技会を実施した。雨の中の開催となったが、生徒たちは一生懸命活動していた。
- ・ 本日の文化祭は、保護者が250名前後、中学生とその保護者が150名前後、来る予定である。

【生徒支援 篠原】

- ・ 特別指導の件数は、2学期になっても多い状況。友人同士のトラブルが多く見られる。
- ・ 健康面に関しては、コロナの影響からか、友人関係のトラブルや心の悩みについて保健室に相談する生徒が多くみられる。
- ・ 行事としては、交通安全、自転車点検、薬物乱用防止教室を実施している。特に、自転車点検については、自転車のブレーキ調整不足や空気が少ない等をPTAと協力して確認した。12月に再度1度指導していく。

【学事 田中修】

- ・ 1年生から、学習指導要領の改訂が始まり、各教科の指導が若干変わってきている。今後、3年間をかけて年次進行で進めていく。
- ・ 1人1台端末について、新学習指導要領で文科省から提案があって、Chromebook 等の端末を使った授業を取り入れている。

【総合技術 鈴木】

- ・ ジュニアマイスターは、前期に3年生が2名申請した。
- ・ 6月の下旬に神奈川工科大学の中津川先生と、本校卒業生の葉山先生に出前授業を依頼し。課題研究のソフトウェア開発で実施し、生徒たちは楽しくプログラミングを学ぶことができた。

【進路 高木】

- ・ 本年度、早い段階で多くの生徒が、内定を受けた。通常は、1社目で7割くらいの合格率だが、今年は9割という高い合格率となった。課題としては、地元企業に生徒を送れなかったことである。求人自体は非常に多かったが、生徒の好みや進路志向というものが若干変わってきていると思う。
- ・ 1社に3人くらいの割合で内定をもらっているが、来年以降は生徒数が減るので、就職する生徒も減ってしまうことが懸念される。
- ・ 今年度は大学進学希望者が多く、理工系大学を中心に30名程度希望を出した。大学の難化が進んでいるという印象があり、進学を希望する生徒には、基礎学力の充実が普段から指導で必要であると痛感している。

【広報企画 藤井】

- ・ 広報活動に注力している。この数年、本校では定員割れが起きており、学校説明会は、これまでは7月、10月、12月だったのを、9月に学校相談会に変更した。
- ・ また、授業見学会を開き、普段の平工の授業を見てもらうということを3年ぶりに再開してみたところ、53人の中学生が参加した。
- ・ 実習体験も今までは募集定員が少なく、抽選漏れが多数いたが、今年は1回の受入人数を増やして開催した。
- ・ 親子ものづくり体験教室は対象を小学生に絞った。その結果、7月の実習体験では57人、9月の実習体験では23人が来校した。また、8月の親子ものづくり体験は、小学生が21人来校し、ものづくりに興味をもってもらっていることが分かった。
- ・ ホームページの更新回数を増やすとともに、公私合同説明会では動画発表会にすることで、平工ブースに来る中学生及び保護者が増えた。
- ・ 中学校訪問も3年生のクラス数×人数という形で、チラシを通じて平工の魅力を発信した。
- ・ 12月にも学校説明会があり、すでに3,4組の予約が入っている。

4 学校評価部会

(1)校内評価(中間)報告

【佐藤教頭】

学校評価部会として校内評価(中間報告)を行い、グループリーダーの説明後、各委員から意見質問等を受けた。

【総務 秋沢】

地震防災訓練は、コロナ対策をしながらスムーズに行うことができた。今後、起震車体験や津波防災を計画している。また、PTA活動、地域貢献にも今後取り組んでいく。

【教科外 田中聡】

- ・ 部活動について、今年度は昨年度に比べて増加が見込まれている。しかし、部活動と家計を助けるアルバイトの両立について課題となっている。
- ・ 生徒会の役員の数は増えたが、兼部をしている生徒もいるので、なかなか思うように全力で活動できていない。
- ・ 各顧問について、大会が終わって新しくチームを作るときに、広報活動や部員を集めるような活動を依頼しているが、学期の途中で部活を始めることに、あまり経験のない生徒への理解が得られない側面がある。

【石井委員】

顧問は、外部顧問に依頼しているのか。

【教科外 田中聡】

外部顧問はインストラクターとして、今年は9名配置している。

【齋藤校長】

県立高校では、中学校で外部顧問をつけるということをやっているが、高校は県独自で先行でやっているのでもまだ外部顧問は普及していない。今後、中学校が全て外部顧問になったら、高校でも取り入れると思う。

【石井委員】

競技経験のある人がなると厳しくなり、生徒がついていけなくなるという問題がある。そういうのを目指さなくて部活としてやるのがいいのか、よく見極めて今後選んでほしい。

【教科外 田中聡】

顧問教員は競技経験や指導経験があつたりする人を軸に配置している。運動部に限らず、例えば文化部の吹奏楽部で、楽器を触ったことがないという教員も多いことから配置苦労している。インストラクターは卒業生が何人かいて、週に1回程度指導をしてきている。

【松波委員】

外部顧問が部活動を指導することで、先生はまるっきり関わらなくていいような形になることはないのか。

【齋藤校長】

外部指導者は、その方もお仕事をしているということで、平日はなかなか指導できないため、土日に指導していただくことから、教員が全く関わらないことはないと思っている。

【石井委員】

トラブルをとにかくどう回避するか考えながら制度を入れた方がいい。

【生徒支援 篠原】

- ・ 生徒指導案件、特別指導が増加している。自転車の通学マナーについて、近隣住民から厳しい指摘を受けている今後。校外指導も工夫しながら行っていく。
- ・ 保健室の来室が増えている件について、教育相談コーディネーターが中心になって、スクールカウンセラーと学校が支援体制を整えている。しかし、月2回ということでは予約がいっぱいになるという状況である。養護教諭にも相談が多ことから、可能な限りスクールカウンセラーの来校数を増やすなどの対応が可能か考えていきたい。

【松波委員】

自転車通学の際、警察に自転車の注意を受けたことがあるか把握はしていないのか。

【坂本委員】

JRのアンダーパスは、歩道を自転車で走っているの人が非常に多いと感じる。朝の時間帯は、学校や職場に行くのに焦っていると思われる。

【学事 田中修】

プレハブ棟に、この春移動した。校内Wi-Fiルーターの台数が、教室棟よりも少なくなっている。通信テストを行ったところ、生徒全員の端末のWi-Fiを切った後に、Wi-Fiを入れると、75%に下がってしまう。通常の県立高校とは違い、特異な状況なので環境の整備が必要である。本来であれば教室に1個あれば潤沢に行くはずだが、台数の割り当てがなく、2教室同時使用だと、どちらかしか使えない等の特異な状況にある。

【総合技術 鈴木】

- ・ 4月当初、大学の先生の授業を受けてみたいかと生徒に聞いたところ、受けてみたいと言った生徒が多いため、出前授業を行った。
- ・ 資格試験について、年度末に実施したすべての検定の結果が出そうなので、そのタイミングで報告できると思う。今年の第2期の電気工事の筆記試験が本日あったが、文化祭があるため、今年は1回のみとなった。

【進路 高木】

- ・ 今年は2年ぶりにインターシップと上級学校見学という夏のイベントを再開した。去年、今年はインターンシップを経験していない生徒が就職をしていくという状態だった。上級学校見学についても、神奈川工科大学と東京

工芸大学の2校の大学コースと専門学校のコースの2コースを毎年実施している。それぞれ生徒が参加して、大学の様子を見て感動していたという生徒もいた。やはり、2年生時の、このような意識付けは大切だと実感した。

- ・ 1年生は9月に進路別説明会を開き、進学の子、就職の子をそれぞれ、専門学校の先生、ハローワークの方に今から意識付けをするようにという話を受けた。ハローワークには、入社試験や面接が苦手な生徒に対して、個別に指導助言を受けた結果、内定へつなげる取組みを去年あたりより行っている。

【広報企画 藤井】

学校体験回数を増やす目的で、実際に実習体験を増やした結果、参加者は増加した。やはり体験を望む中学生は多いと感じました。その反面、断らなければならない状況があるので、それを改善することが今後の課題。

【石井委員】

電気自動車のように電気とか機械とか化学という境目がなくなっているなかで、それらすべてを扱う総合的な科や、勉強する仕組みは教育課程の中で自由にできないのか。

【齋藤校長】

工業高校は、やらなければならない科目がほとんどないため、学校がやりたい教育を組み立てていき、全部で25単位になればいいことから、特徴に合わせて組み立てている。

生徒にとってロボットは機械的な内容とかプログラムになり、ソフトウェアでもハード的な知識を備えたソフトウェアという形であるため、難易度が高いと思う。

【石井委員】

平工機械系がロボット機械、電気系が無人運転やITとかそういう関係のイメージ、情報系はAIという名前を少し変えるだけでイメージが違う。そういう大学もあると思う。

【坂本委員】

ホームページがすごく見やすく、良くなっている。

【広報企画 藤井】

生徒の顔を映すのが難しい。昨日は教室の黒板アートを撮って、黒板アート特集として動画を出そうと思っている。生徒の個人面とかプライバシーに配慮した方法を考えている。

【石田委員】

大学の工科系の大学は女子学生をどうやったら入学してくれるかを考えている。高校においても、女子の中学生の工科系高校への動機等で何か変化はあるか。

【広報企画 藤井】

学校説明会を見ていると、女子生徒の希望者は少ないと感じる。やはり、機械、自動車は汚れるというイメージがあるのではないか。その汚れるというイメージを払拭するため、動画でレーザー加工や3Dプリンター、環境分析の機械等を見せて反応を見ている。

【石田委員】

ぜひ今後その状況、様子を見てほしい。少なくとも工科系大学はどうやったら女子学生の入学を増加させることができるか考え、本気で動きます。

【齋藤校長】

文科省が言っている文理融合は、今後はやめるという学校も増えてきている。

(2) 学校関係者評価(中間)

【教頭佐藤】

教育課程、生徒指導、生徒支援について評価を書面で回答してほしい。

5 意見交換

【石井委員】

自動車関連で電気自動車も勉強できる流れがあると思っている。

【齋藤校長】

教育は本当の意味で最先端のことより基礎的な技術を学んでいる。自動車工学という科目では、電気自動車について詳しく書かれていない。

非常に貴重な御意見を伺ったので参考にしたい。

【佐藤教頭】

第3回は3月に予定している。

○出席者

- ・松波 正利 同窓会副会長
- ・石田 裕昭 神奈川工科大学 経営管理本部企画入学課担当部長
- ・石井 正夫 株式会社IMC代表取締役
- ・井上 弘治 横浜ゴム株式会社 平塚製造所総務グループ課長補佐
- ・坂本 雅晴 特定非営利活動法人 ヨコハマみらい環境協議会理事
- ・小林 真理子 PTA会長
- ・齋藤 和宏 校長
- ・米田 朋正 副校長
- ・佐藤 秀世 教頭
- ・深代 照子 事務長
- ・田中 修 学事GL
- ・篠原 正樹 生徒支援GL
- ・秋澤 和利 総務GL
- ・高木 一郎 進路指導 GL
- ・藤井 智之 広報企画GL
- ・田中 聡 教科外活動支援GL
- ・鈴木 浩司 総合技術科GL